

第4節 火災・事故

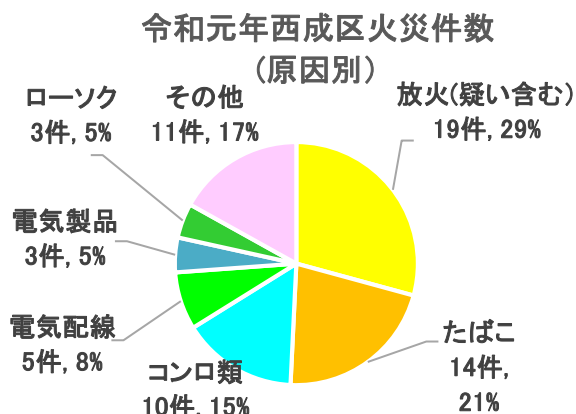
住宅・ビル等の火災、道路交通の事故、鉄道事故、ヘリコプターや航空機の墜落、石油・ガス・化学物質の漏れ・爆発などが発生した場合、燃料漏れによる爆発・延焼などの危険性があります。

また、すぐには原因が特定できない場合や目に見えない有毒ガスの漏れの場合は、危険性がわからず、被害を受けることもあります。

このような災害現場においては、「警戒区域」が設定され、この区域の外への避難が呼びかけられる場合があります。その場合は、現場対応している関係機関の職員の指示に従い、区域外に速かに避難しましょう。

1. 西成区の火災について

西成区の令和元年中の火災件数は65件で、その主要な原因のうち、「放火（疑いを含む）」が19件で火災件数全体の29%を占めており、次いで「たばこ」「コンロ類」「電気配線」と続いており、火気の取り扱いの不注意や不始末が原因で火災が発生しています。火種は身近にあることを理解し、火気を取扱う時は細心の注意を心がけることが重要です。



2. 出火の原因となるもの

私たちの身の回りには、火災の原因となる危険なものが多くあります。何が危険なのかを、まずは理解しましょう。

①放火

西成区で令和元年の出火原因の一番多いのは「放火（疑いを含む）」でした。放火の対象は「火を付けやすい場所ならどこでも…」と、どこが狙われているかわかりません。家の周囲やマンション・アパートの通路に新聞紙・雑誌など燃えやすいものを置いていませんか？そういうところを狙って放火されるケースが目立ちます。

②たばこ

大阪市内での令和元年の出火原因の一位は「たばこ」でした。「たばこの火種」が寝たばこによって寝具等に落下すると、炎を上げずにじわじわと燃焼（無炎燃焼）を続け、重大な事故につながってしまいます。この「たばこの火種」は、消したつもりでも完全に消えていないことがあります。たばこの吸殻をそのまま安易にごみ箱へ捨てると、ごみ箱内のごみに着火して炎が上がり周りの物へ燃え広がります。また、たばこの投げ捨ても火災危険がありますので絶対にやめてください。

③コンロ

「ついうっかり」の消し忘れが危険です。揚げ物をしている途中にその場を離れた結果、油が過熱し火災が発生するケースが後をたちません。

④電気配線

電気コードを家具で踏んだり、たばねたり、たこ足配線は、コードが発熱して火災になります。また、コンセントのプラグを掃除しないで差しっぱなしにすることや、ペットのコードかじりもショートの原因となり危険です。